

# 令和6年度（2024年度）新規研究課題

課題番号：R6-06

課題名：新規就農者の営農計画管理技術習得を支援する手法の開発

研究期間：令和6年～令和8年（2024年～2026年）

研究担当：農林業技術部 経営高度化研究室

## 1 研究の背景

山口県では新規就農者の確保・定着に注力しており、平成27年度以降毎年100名以上が就農している。しかし、本県の就農者の65%は経営未確立であり、早期に経営を確立できる支援体制整備が必要である。

経営未確立の就農者は「経営管理技術に対する課題」を抱えている。

経営管理の基本は「営農計画」であるが、営農計画を管理できるツールが未整備のため、就農希望者は就農前研修において営農計画管理技術を習得することができていない。

## 2 目的

営農計画を作成・管理できるツールを開発することで、就農希望者が就農前研修において営農計画管理技術を習得できる環境を整備する。

## 3 研究内容

- （1）就農者が既存の経営指標や自身の経営データを整理し、営農計画を作成・管理できるツールを開発する。
- （2）県立農業大学校の就農前研修において本ツールを活用し、研修生の反応をみながら改良を重ねる。

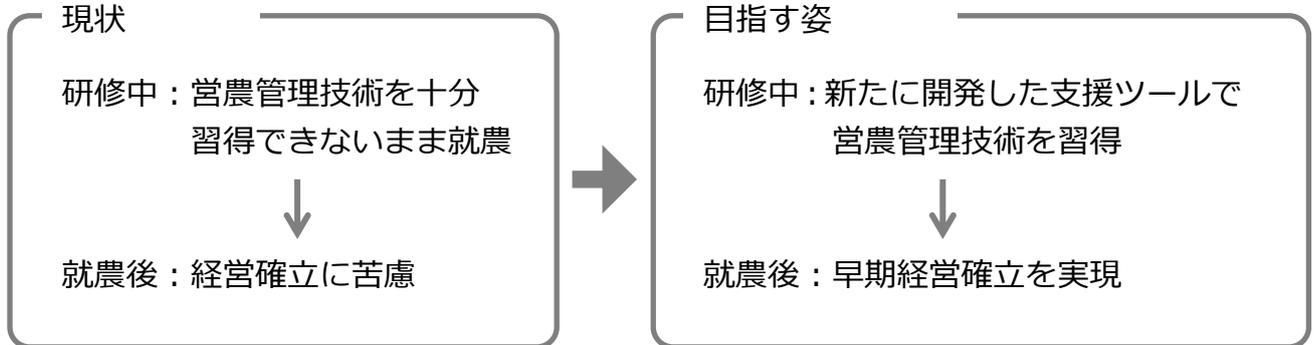
## 4 研究のポイント

- （1）就農者が、研修で行う栽培実習のデータ（農業アプリで収集）から営農計画を作成し、経営の方向性を検討できるツールを開発する。本ツールを開発することで、自身の栽培実績をもとに営農計画を作成・管理できる技術の習得を支援することができる。
- （2）本ツールを活用した研修を行うことで、就農者は早い段階から営農計画の重要性を認識でき、日常の営農活動から経営管理を意識することができる。
- （3）就農後に本ツールを用いて実績を登録すれば、計画と実績の差異を検証できる。また、当該データを支援機関と共有すれば、支援機関は就農者の経営実態をより正確に把握したうえで指導を行うことができる。

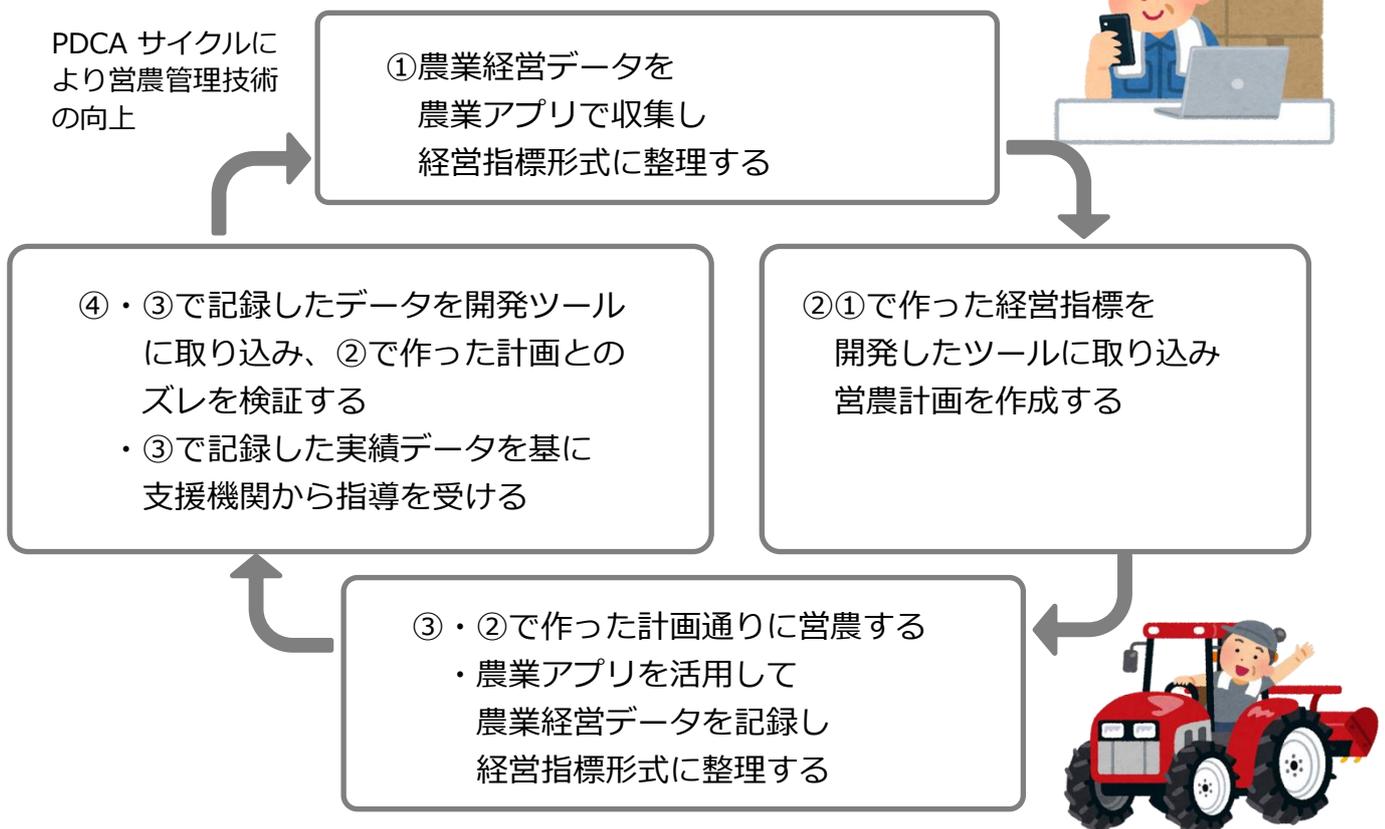
# 新規就農者の営農計画管理技術習得を支援する手法の開発

研究期間：R6-R8（2024-2026）  
研究担当：農林業技術部 経営高度化研究室

## 研究の背景・目的



## 開発ツールの活用イメージ



## 研究のポイント

- 開発したツールを活用することにより、就農者は自分の栽培実績をもとに営農計画を作成・管理できる
- 就農者は早い段階から営農計画の重要性を認識できるようになる
- 開発したツールで記録した営農データを支援機関と共有すれば、支援機関は就農者の経営実態をより正確に把握したうえで指導を行うことができる